



メロンマラソン「わかみメロン」振る舞い復活

7月30日(日)、第35回日本メロンマラソンが男鹿市若美地区で開かれ、県内外から2614名がエントリーしました。菅原広二市長や当JAの佐藤広美組合長らの合図でランナーがスタートし、地域住民やスタッフが沿道から声援を送りました。

ゴール奥では「わかみメロン」の振る舞いコーナーが4年ぶりに再開。ランナーは日本海沿岸やメロン畑、水田などを見渡すコースを駆け抜けたあとにメロンを食べ、「甘くておいしい」「いくらでも食べられる」などと話して完走後の体を癒していました。

📷 ゴール後にメロンを楽しむランナー



カボチャ出荷目揃え会

7月25日(火)、カボチャの出荷最盛期を前に、目揃え会が追分生活センターで開かれました。生産者ら約20名が参加し、収穫から出荷までの間の管理方法や出荷規格などを学びました。

営農センターの職員がカボチャの形状や傷、日焼けなどの例を見せながら、等級基準を説明しました。長雨や大雨で水分過剰となったことで腐れ果の発生もみられることから、十分に注意して風乾することから掛けました。(株)高井南茄園からは冠水後の対策や草勢の維持に効果的な資材などが紹介されました。

📷 等級基準や雨の影響などを話し合いました



男鹿中よりそいプラザ利用者に感謝

8月9日(水)と10日(木)、男鹿中よりそいプラザの感謝祭が行われました。同プラザに併設されたATMを訪れた地域住民や男鹿中給油所を利用した方に、日頃のご愛顧に感謝して管内産の枝豆をプレゼントしました。

JA職員が「いつもありがとうございます」と声をかけて枝豆を手渡すと、来店者は笑顔で受け取り、JA職員と近況を話したり、ATMで通帳を記帳して振込内容を探ねたりする様子なども見られました。

JAと地域が寄り添う拠点として、今後もお気軽にご利用ください。

📷 利用者に枝豆を手渡すJA職員



栽培履歴の電子化へ「あい作」操作説明会

8月8日(火)から10日(木)の3日間、スマートフォンなどで利用できない栽培管理システム「あい作」の操作説明会が行われました。「あい作」は農作業の履歴などを記録できるので、JAへの栽培履歴の提出を電子で行うことが可能です。日々の作業の効率を高め、栽培管理簿の提出や農業の適正使用のチェックなどを円滑に行うため、今年度はネギと枝豆の生産者を対象にテスト運用しています。

参加した生産者は実際に手持ちのスマートフォンなどで「あい作」を操作して、機能などを体感しました。

📷 「あい作」の操作感を試す生産者